

# 人間力につながる学力の育成 —義務教育と「義務教育段階の教育」—

市川伸一(東京大学教育学研究科)

教育心理学の視点から  
学習相談室運営の経験から  
人間力戦略研究会の主査として  
地域教育推進の立場から

# 第2次学力低下論争？

1998年指導要領改訂時の「学力低下」論争

1999年春から2002年春まで

論争の2つの軸

学力低下の軸： 学力は本当に低下したのか？

改革路線の軸： 90年代型「教育改革」を支持するか

PISA2003、TIMSS2003の結果による構図の変化

「学力低下傾向」の事実化

伝統的教育の復活？

授業日・時間数、学習指導要領、反復徹底、受験競争

# 学力低下の原因の諸説 (市川, 2002)

## 1. 社会の動向

少子化による受験圧力の減少      過度の受験競争による意欲減退  
学歴信仰の崩壊による無力感      豊かな社会での生活様式や価値  
観の変化      子どもの経済力と享樂的な娯樂の増大

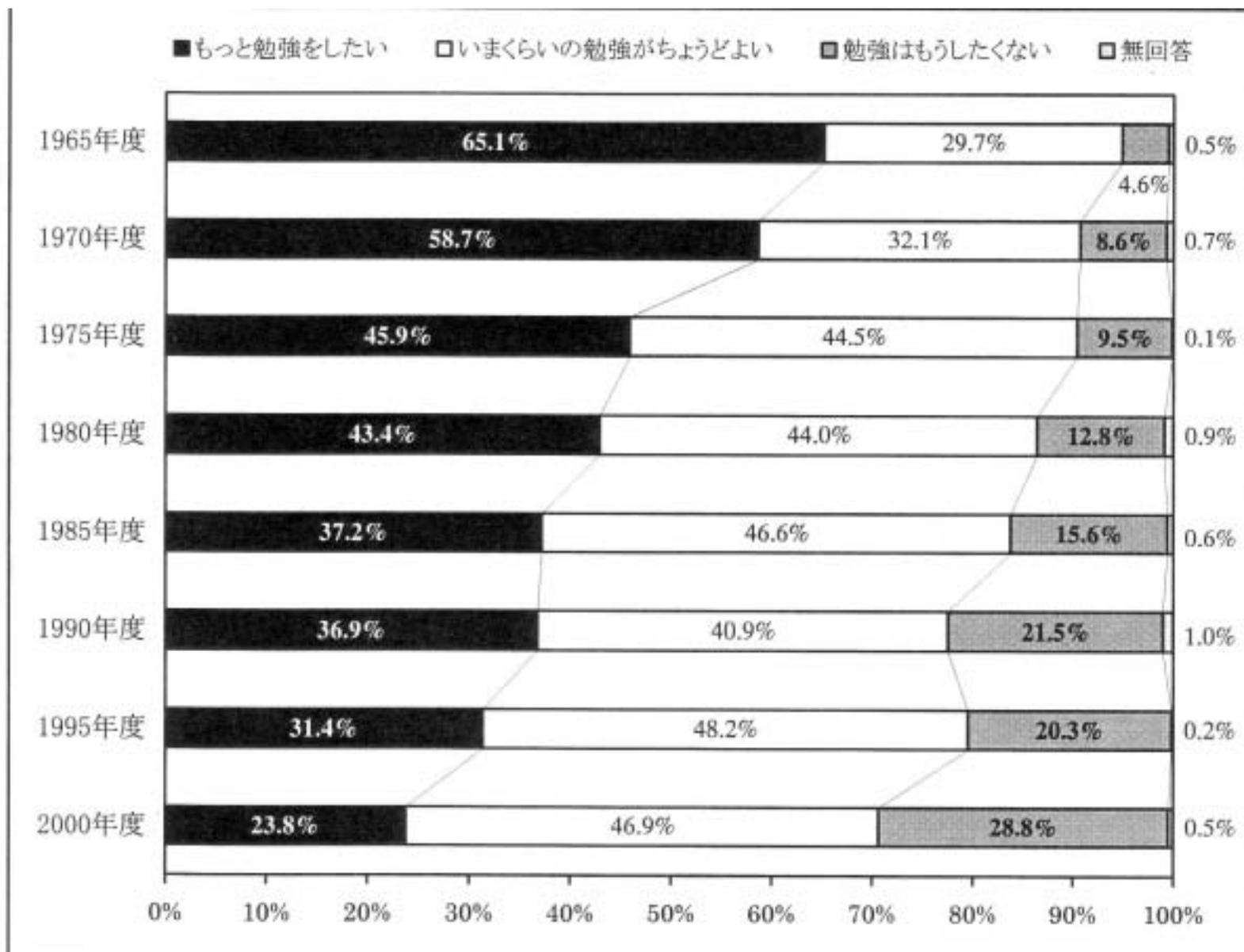
## 2. 学校の指導内容・方法の変化

教科の時間数・内容の減少      「指導より支援」の教育方針  
宿題の減少による家庭学習の習慣やスキルの低下      学校内外  
の安易な指導方法・教材の普及による学習方法の質的变化

## 3. 教育政策・制度の変化

入試科目数の減少      公立高校入試選抜方式に伴う私立志向  
により、受験競争・高学歴が経済的上位階層に限定

# 中学3年生の学習意欲 (藤沢市:1965~2000)



# 学習動機の2要因モデル

内発的

学習内容の重要性

大  
(重視)



小  
(軽視)

<b>充実志向</b> 学習自体が 楽しい	<b>訓練志向</b> 知力をきた えるため	<b>実用志向</b> 仕事や生活 に生かす
<b>関係志向</b> 他者に つられて	<b>自尊志向</b> プライドや 競争心から	<b>報酬志向</b> 報酬を得る 手段として

小 (間接的)



大 (直接的)

学習の功利性

外発的

# 学力・学習意欲の向上策とは

知識を生かして探究する活動を

「習得」と「探究」の学習サイクル

「教えて考えさせる授業」を基調に

「教えずに考えさせる授業」との対比

家庭学習を含めた学習スキルの育成

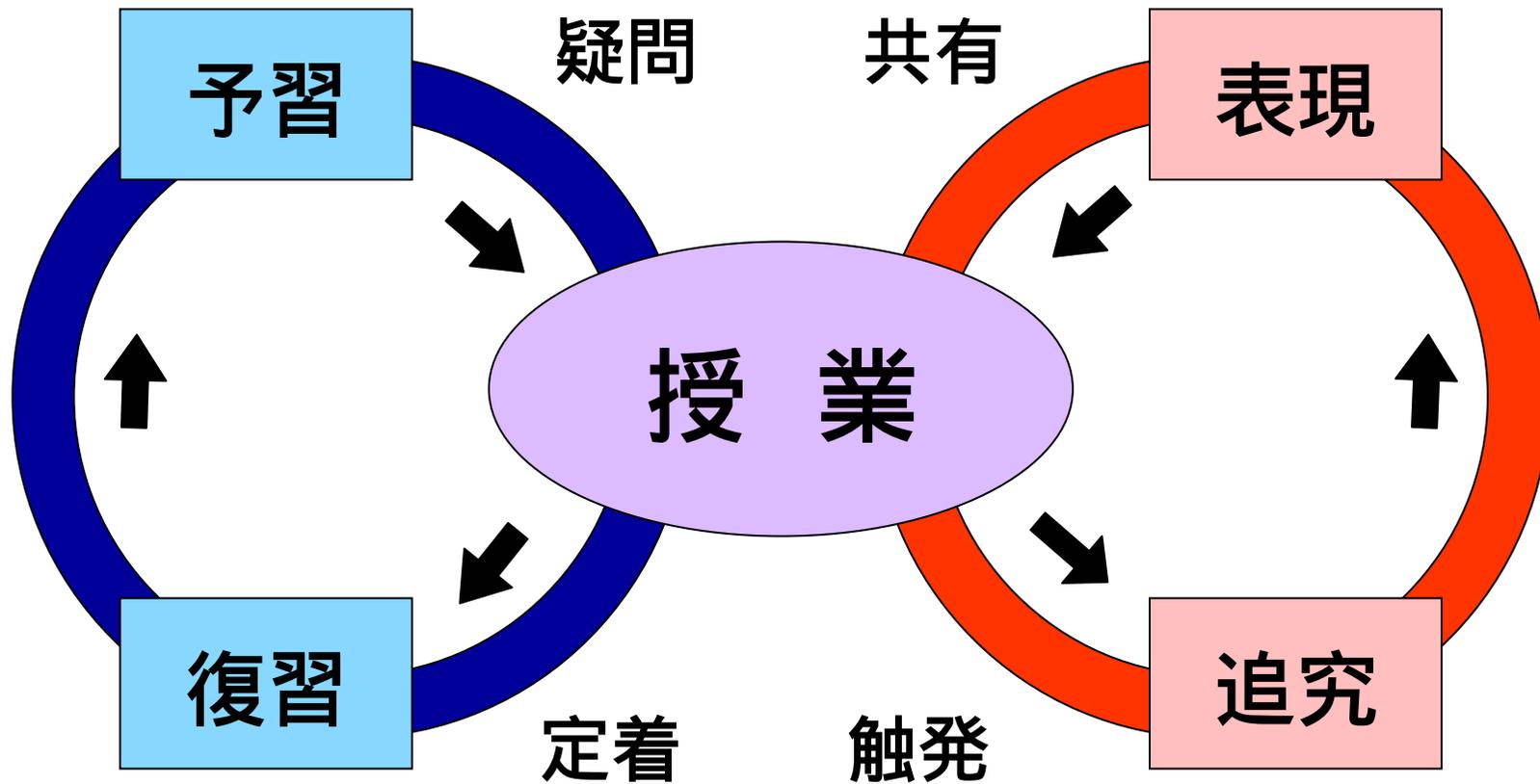
学習方法を取りあげた授業

授業外学習支援の充実

学習相談室、放課後学習チューター

学校・地域の人間力形成： 学びのポイントラリー

# 学習の2サイクルのバランスとリンク



習得サイクル

探究サイクル

# 三宅ゼミの機能的学習環境

1980年代の半ば、青山学院女子短期大学  
自分たちのテーマを追究する「英語の授業」

女性の自立、女性と仕事、子育て、…

パソコン通信で、アメリカやイスラエルにアンケート  
送付、レポート交換

## 機能的学習環境

・学習者にとって、学んでいることの意義が見え  
やすい学習の場の設定

# ThinkQuest

国際ホームページ・コンテスト(最近は、国内版も)

内容は、「教材」であること

12才から18才の学生(中学・高校生)

2～3人のチームをつかって参加

必ずコーチをつける

Advanced Network & Services, Inc.

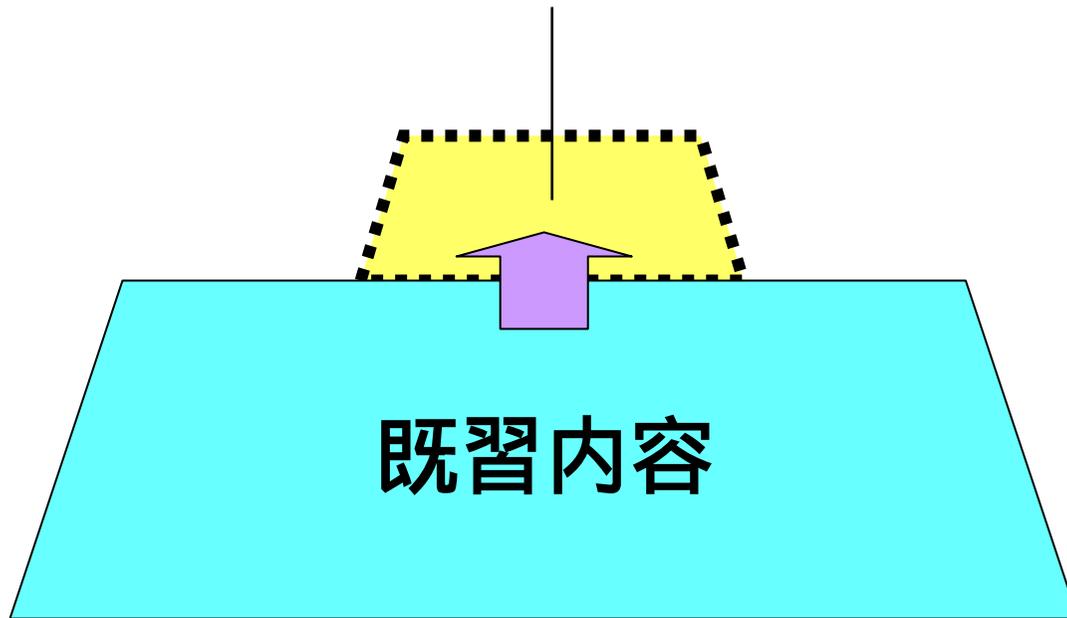
<http://www.thinkquest.org/>



2005/3/16

# 教えずに考えさせる授業

新しい学習事項

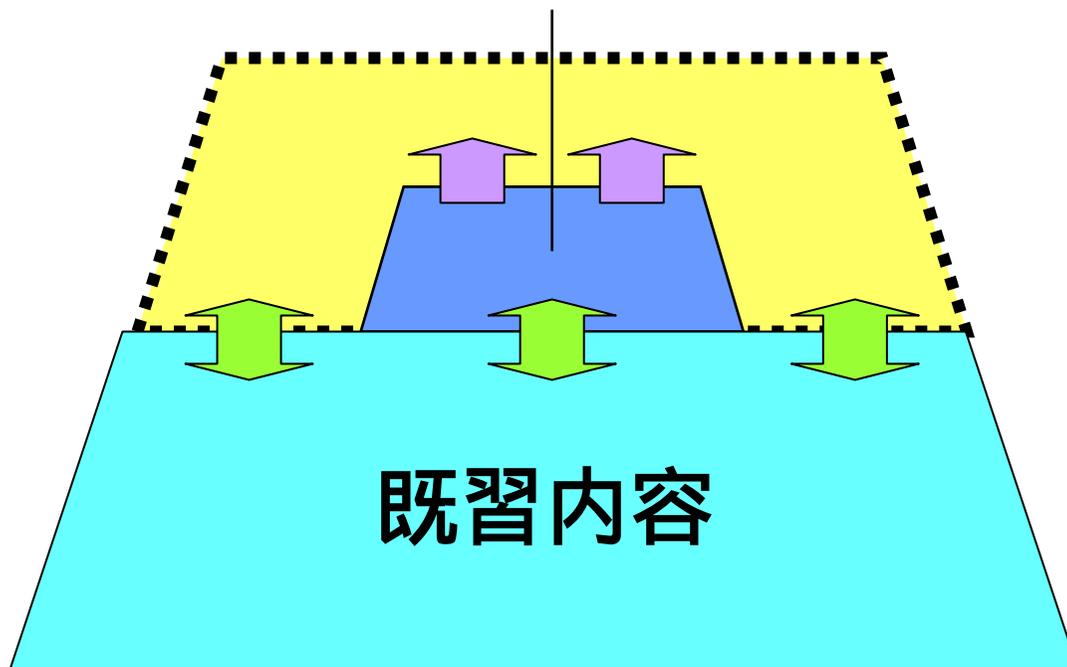


授業の流れ

問題提示  
自力(協同)解決  
確認(まとめ)  
ドリルまたは発展

# 教えて考えさせる授業

新しい学習事項



授業の流れ

教師からの説明  
理解の確認  
発展課題  
自己評価活動



# 内閣府「人間力戦略研究会」

(2002年11月～2003年3月)

「学力」論議からの教訓

学力とは何かの定義論

何を学力と名づけるか

学力を広くとらえる論議

不毛な論議

さらなる混乱

教育、産業、労働・雇用の分野から「人間力」を考える

「人間力」という用語と定義を普及させること

ではなく

「人間力」という言葉に触発されて教育像が広がること

# 「人間力」につながる学力の育成

伝統的な教育の理想像

教科を極めた自己実現者

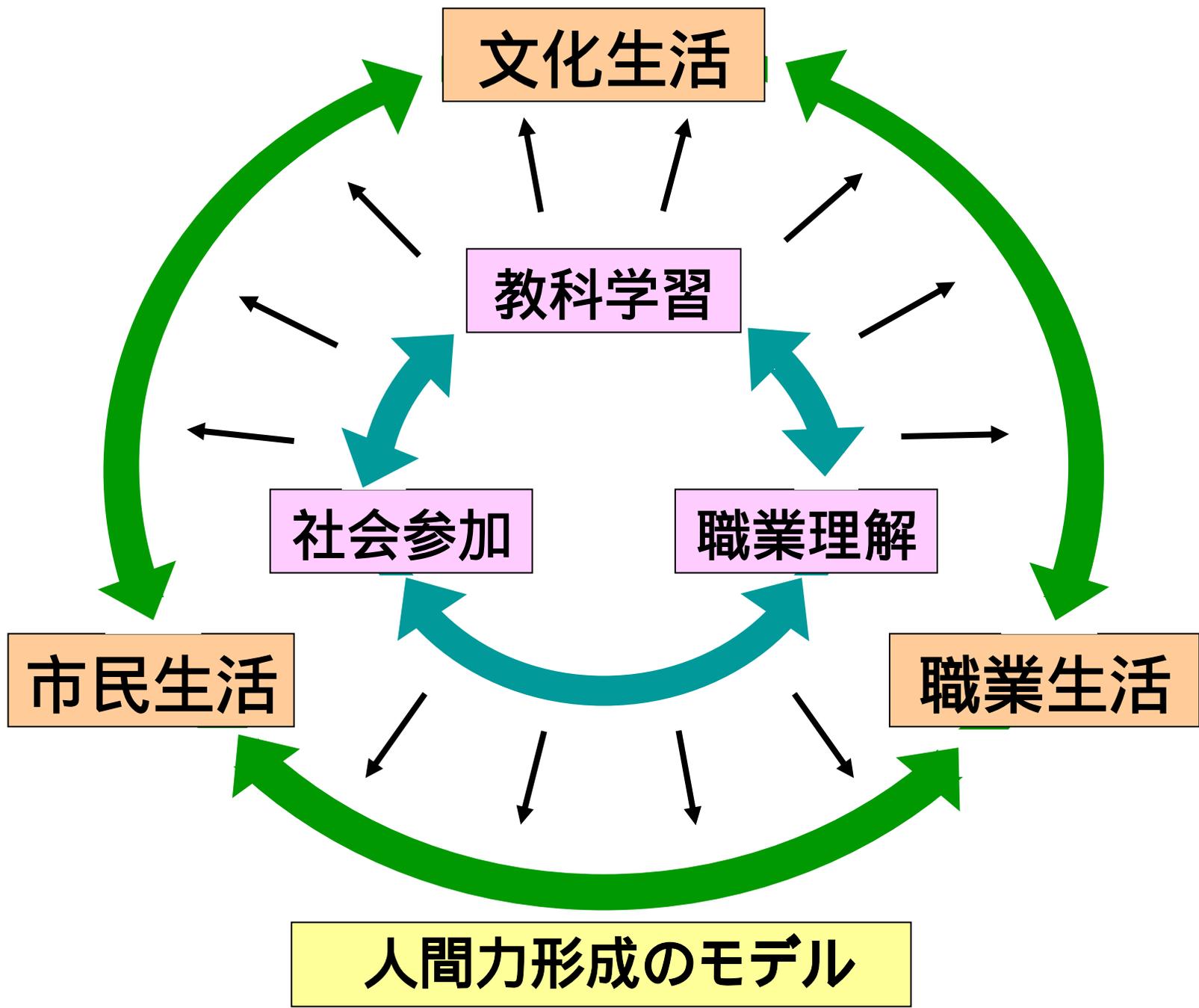
学者、芸術家、スポーツ選手、…

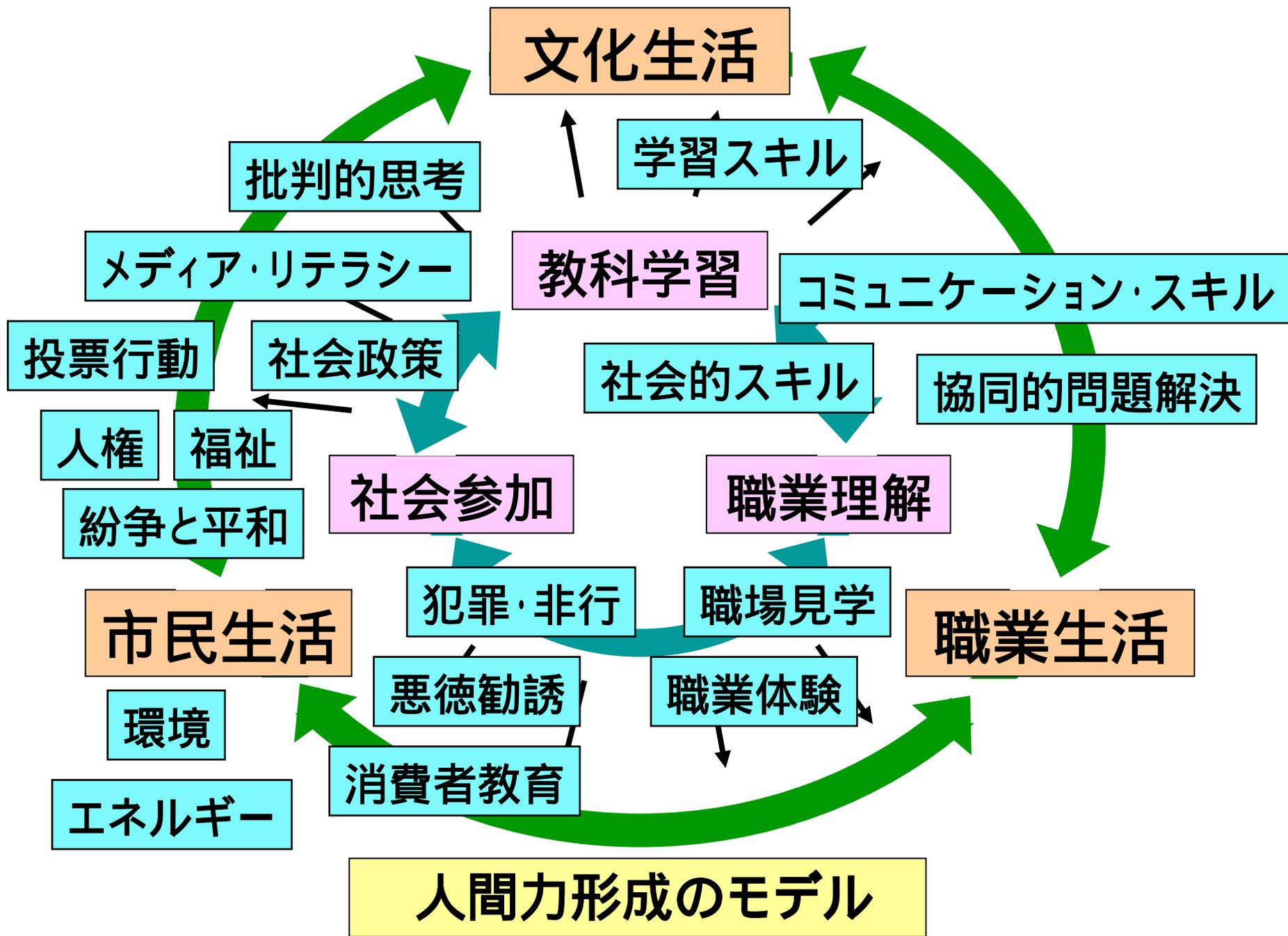
健全な生活を営んでいる「一般市民」をモデルに

教育によって何を育てるのか

「学問 = 学習 = 学力 = 学校」から

「人間として、社会の中で、自立して力強く生きていく力」へ





人間力形成のモデル

## さまざまな学習環境の長所・短所

### 学校教育（授業・補習・部活等）

義務教育は、すべての子どもが受けられる  
高校も、公立ならば費用はあまりかからない  
成績・卒業が、進学・就職の社会的評価につながる  
児童・生徒に内容選択の自由が少ない  
補習・部活は、学校に所属している生徒しか参加できない

### 民間教育（塾・習い事等）

多様な内容・レベルから選択できる  
家庭に経済力がないと受けにくい  
商業ベースにのる内容に限定されがち

### 地域教育（自治体・市民団体・大学・民間企業等）

多様なプログラムが提供される  
生徒は、自由、自発的に参加でき、費用も安い  
もともと意欲が高い子どもだけになりがち



# 学びのポイントラリー

地域で行う超・選択学習

自治体、市民団体、NPO、民間企業、大学、地域の施設等が  
教育プログラムを提供

学校を通じて、児童・生徒に紹介

運営主体は自治体または地域の学び推進機構

分野としては、

教科学習 / 文化・スポーツ / 市民生活 / 職業理解

年間40ポイント以上の取得を小5～高3に促す

認定証は学習履歴として、進学先・就職先等に自己アピール

地域の学び推進機構 <http://www.chiiki-manabi.org>



2005/3/16

社会(教師)のねがい

教師の支援

教師の支援



「なりたい自己」と「なれる自己」の拡大とその支援